

村半利活用検討会（令和6年度第3回）結果報告

日時 令和6年12月26日（水） 16時～17時

場所 村半 大会議室

出席者 検討会メンバー 6名、事務局（総合政策部総合政策課） 3名

内容

1 協議事項

(1) 利用状況等について

- ・ 令和6年10月、11月の利用状況や占用利用実績等について説明
- ・ 今後の占用受付について

2 報告事項

- (1) 令和6年秋の高山祭の状況について
- (2) 来所者10万人達成について
- (3) 村半主催イベントの実施について

<意見交換、質疑> メ:構成メンバー、事:事務局

(1) 協議事項に対する意見等

事:10万人達成や村半主催イベントなど、高校生の時に村半を利用してくれた子どもたちが大きくなって戻ってきてくれたり、引き続き村半のことを思ってくれていることは喜ばしいこと。

メ:台所の利用について、小中高の子ども達は家で友達と遊ぶことが少なくなっていると聞いている。村半は子どものニーズを捉えていると思う。ここだからこそできるような、みんなで一緒に調理をしたり、実験的なことも村半ではできると思う。そういった利用の仕方がインスタなどで紹介されているため、これからも広がっていくと良いと思う。

12月の占用利用の中で「進路相談会」とあるが、これについて内容を教えてほしい。

事:市内の事業所にお勤めの方が開催されたもので、その方は大学生のユーターンなど、若者の地元就職をすすめる活動に取り組んでいる。12月の利用はその活動の一つとして実施されたもので、高校生を対象に、大学の学部に進むと高山の事業所ではこんなことに生かせるといったお話や事業所の紹介などを行った。

メ:高校生の参加はあったか。

事:参加者は実施した2日間とおして少なかった。イベント終了後に主催者の方とお話しをしたときに、主催者の方からは「参加者が少ないという結果が分かって良かった。学生に参加してもらうためにはという課題に対してこれからも一生懸命考えるので村半スタッフにも相談にのってほしい」と言われた。今後は小規模の小さい相談会を継続して続けていきたいということだった。大人が一生懸命になって学生のニーズに合わせた企画を出すという過程が大事だと思うので、その部分に対しては伴走していきたいと思っている。

メ:秋の高山祭は2日間無事に行事を行うことができ感謝する。天候について、八幡祭は過去に開催日を9月から10月に変更している。変更の際に9日、10日は比較的天候が良いため選んだと聞いているが、意外と雨が多い。気候が変わってきているということだと思う。歩行者の通行規制の安全

対策については、警察の方などが熱心を実施されていたと思うが、歩行者は出ていくことはできても入っていくことができないため、安川通りはガラガラのところがあり、屋台が下三之町を上がって安川通りに出たときは人の列が2列くらいのところもあった。規制が過剰な部分があったと思う。たくさんの方に見ていただけるような祭りにしてもらいたいと思う。

事:安全確保が全面に出すぎていたようにも思ったが、今後に期待したい。

メ:登録者数について、一回登録すると永久に登録者となるのか。

事:そのとおり。

メ:高校生の登録は現在何人くらいか。実態を捉えることは難しいのか。

事:資料に記載の数値は、登録時点の年齢や種別で集計したものであり、高校生の数は積みあがっているため、現在高校生である登録者の数はわからない。今年度個人で275人登録があるが、中高生の登録は全体の5割6割以上を占めており、これまでの全登録者数の所属別割合と同じくらいの割合で登録があるように思う。また、高校別の内訳を記載しているが、こちらについては変わってきている。開所当初の令和2年、3年は斐太高校の学生の登録が多かったが、最近は他の高校の学生の登録もある。次回の利活用検討会では年度ごとの登録状況も提示したい。

事:登録者が積みあがっていくということについては、それが適切な公表数値であるかは課題ではあるが、現時点ではどのような集計が良いか案はない。

メ:実態を捉えることは難しいと思うが、このままいくと1万人、2万人とどんどん増えていく。

事:幽霊会員も含まれている。

メ:高校を卒業した方は、この高校生の人数からは省いているのか。

事:省いていない。進路を把握していないため、登録時点の所属で集計している。

メ:そうすると、この高校生の数値の中には現在は大学生や社会人もいたりするということか。

事:そのとおり。

メ:高山を離れても友達を連れて帰って来て利用するといったこともあると思うので、村半という場所を意識させるためにも登録制は良いことだと思う。

メ:図書館は積み上げか？

事:そうだと思う。

メ:更新もないためそうだと思う。

※補足※

高山市図書館では、登録情報を適正に管理するため令和元年6月より図書利用カードの有効期限を設定している。登録から5年が経過すると更新手続きが必要となる。

事:登録番号が1桁の子どもも今も来所することがあり、それを見ると嬉しくて「覚えているよ」と伝える。また、登録番号の桁数を比べ合って利用者の子どもたちが盛り上がることもある。それらはわたしたちにとって大事な時間であり嬉しい光景である。村半は目的をもって利用してもらうだけでなく、ふとその時に必要になって使うフリースペースのような場所でもある。いざというときにすぐ来て使ってもらえるように登録カードを持っていてもらえると嬉しい。

メ:高校生のときに利用していた子どもが高山を離れて10年くらい経ってから利用しようとしたときに、登録者の権利を主張できるということか。

事:できる。登録していた子が連れて来てくれた子どもに対して、その子どもの友達だから大切に迎え入れたいと思う。最近大切なパートナーや部活の先輩を連れて来てくれる子どもがよく見られる。このように登録している子どもたちとこれからも繋がっていければと思う。

メ:年代の数値も登録時点での年代の集計か。

事:そのとおり。

メ:データとしては、単年度ごとのデータの方が実態や状況が分かりやすいと思うが。

事:見やすくわかりやすいデータを検討する。

メ:登録者が増え続けていることは良いこと。続けていってほしい。

メ:村半は遅くまで開いており、学生が勉強したり、JRの時間に合わせて利用されていることなど状況は聞いて知っている。以前学生に電話したときに、その学生は村半に居ると言っていたが、そのときの電話で模試の自己採点をしていて大きな声で絶叫していたので周りの利用者に迷惑かけていないか心配した。血が通った施設だと思うので今後も変わらない対応をしていただけるとありがたい。

事:今後は実態をわかってもらえるようなデータの表し方を検討したい。

以上